

赤幡神楽【あかはたかぐら】



開催場所	築上郡築上町大字赤幡 赤幡八幡神社
開催日	1月1日新年祭 5月3日御神幸祭 10月8日おくんちの日
指定	福岡県指定無形民俗文化財

【芸能の概要】

赤幡神楽は旧築上郡十六社家に伝承されてきた神楽で、小倉小笠原藩主の氏神八坂神社の祭礼において、旧京都郡社家神楽と隔年毎に奉納されていた。明治維新後、社家神楽が廃止されてから旧豊前国で一番早く復活（明治7年）したのが赤幡神楽といわれており、赤幡の氏子に伝承されていたのが現在に伝わっている。この時から民間人が昇殿して神楽を奉納する事になった。出雲系神楽に属する豊前系の岩戸神楽で、12の演目からなる式神楽と、10曲からなる特殊神楽で構成されている。

【芸能の特徴】

赤幡神楽は出雲神楽の系統に属する豊前岩戸神楽である。12の演目からなる式神楽〔散米神楽・折居神楽・御福神楽・手草神楽・地割神楽・神宣の舞上・御先神楽・花神楽・四方鬼神楽・戸前神楽・大祓祝詞〕と10曲からなる特殊神楽〔湯立神楽・神迎神楽・綱御先神楽・三神神楽・美須伝神楽・四角手神楽・盆神楽・大蛇神楽・一人舞神楽〕で構成されている。県内では他に見られない演目も多くある。他であまり舞う事がない神楽では三神神楽・神迎神楽がある。三神神楽は三人舞で農・山・海の神が豊作を喜ぶ舞で、途中で餅・菓子等を撒く神迎神楽は六人舞で、猿田彦神の面をつけて大太刀・弓・小太刀・矛を持ち舞う。

【使用する祭具・道具など】

囃子方に使う銅拍子・横笛・太鼓の楽器の演奏して、その音で舞い方をリードし、演目をリードするのが役目だが、楽譜などが全く残っていないため、全て口伝え、耳覚えなどで継承している。その継承には大変な練習と経験が必要である。の楽器が使われ、3人の囃子方によって演奏されている。

・アクセス

京築交通「赤幡」バス停下車すぐ

・周辺の観光

本庄の大樟、
旧蔵内邸、
築城ふるさと公園広場、
牧の原キャンプ場
寒田神楽、
円座餅搗き、
岩戸楽、
知恵の文殊大祭、
紅葉祭り

・近くの特産品

イチゴ、レタス、ナシ、菊、自然薯、
寒田刺身こんにやく

